

知事との県民対話集会（大桑村）概要

- ・開催日時 令和5年2月9日（木） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 大桑村役場 1階多目的ホール
- ・参加者 県民30名、貴舟大桑村長、阿部知事、神事木曾地域振興局長
- ・テーマ 大桑村での子育て

・主な発言（要旨）

【参加者】

・教職員の配置人数について。支援を必要とする児童生徒が増えている。タブレット配置など学びの環境が変化しており、実態に即した教職員の配置をお願いしたい。

【知事】

・教職員の配置については、他のところでも問題提起していただいている。県としても小中学校の教員配置のあり方を考える必要がある。

・子どもの数が減っても専門的な部分は必要。具体的に必要なところを教えてもらえればもう少し考えやすい。教職員について県単独で配置するのであれば予算があるので、どこに必要なのかしっかり見極めてやっていきたい。

【参加者】

・木曾地域でいつでも診療が受けられるよう、木曾病院の存続を。耳鼻咽喉科等の専門科は週に数回の診察である。医師の充実をお願いしたい。

【知事】

・長野県としては、修学資金の貸し付けやドクターバンクなど医師確保に相当力を入れている。
・将来、医師や看護師になりたい若者を県内で増やしていくことが大事。医者を誘致しようとするとき、ドクターからは子どもの学びの環境が大丈夫かと聞かれる。長野県の県立高校が多様なニーズに応えられているのかをもう一度考え直さなければいけない時期に来ている。今高校再編をやっているので、教育委員会には単に高校を再編するだけでは駄目だと言っている。教育委員会は私の権限ではないので、もっと皆さんが声を上げてほしい。
・専門医の充実はしっかりやっていく。

【参加者】

・リニア駅が中津川にできる。人の流れや住環境が大きく変わる。首都圏、中京圏へも通学・通勤が可能になる。リニア駅までのアクセス向上をJRに働き掛けてほしい。

【知事】

・リニアについては、開業前にどういう地域にしていくかということをよく考えないといけない。伊那谷自治体会議でも議論する予定。通学圏内になるというのは重要な観点。JR東海とも問題意識を共有したいし、中間駅の停車本数を増やしてほしいと要望していきたい。

【参加者】

・村の保育園はこの辺りでないと味わえないものを維持してくれている。早朝や延長のニーズにも応えてもらっていて感謝したい。長期連休や子どもの急な発熱時に頼れる場所がない。民間でもいいので安心して預けられる場所があれば助かる大人はたくさんいると思う。

【知事】

・地域で支え合う仕組みをつくれなにか。行政の制度でやると柔軟にやりづらい。先日長野市で保育士、保護者と対話したが、地域で支え合えばいいのではという意見があった。保育園に預けている親同士、子育てを卒業した大人とネットワークをつくり、1回くらいでというルールでやるのは、長野県ならできるのではないかと。地域で知恵を出してやっていけるようにすると、地域全体が子育てに関心をもってやさしい社会にできると思っている。

【参加者】

・部活の地域移行について、団体競技は厳しい。学校単位での大会参加が限界に来ている。小規模校では部活の選択肢がない。スポーツ庁のガイドラインでは都道府県で指導者確保の人材バンクを設立しているが、県としてどのように対応していくのか。

【知事】

・子どもの減少と先生の負担軽減の二つの流れから出てきた話であるが、表面的なところだけ議論しても根本的には解決しないのではないかと。そもそものところを関係者で共有しないと満足できる解にはならない。私の権限ではないが、もう一度教育委員会としっかり話をしたい。

【参加者】

・高校進学にあたり村内に高校がないので自宅から電車通学となる。電車が2時間に1本では不便である。

【知事】

・4月から交通政策局をつくってこれまで以上に交通行政に力を入れていく。免許返納した高齢者、通学、観光の移動の足をどうするのかに焦点を当てたい。
・公共交通だけでなく地域でもっと支え合いなどできないか。一家に一台以上マイカーを持っている。ある資源を有効に使えないかと思っている。

【参加者】

・地元に残る子どもたちの移動に車が必須であり、免許取得時の補助ができないか。

【知事】

・免許の補助について、アイデアを否定するわけではないが、それだけでは地元に残らない気がする。地域に仕事の間をつくる、安心して暮らせるようにすることが必要。現金給付を行うとお金がいくらあっても足りない。今物価が上がって皆さん苦労されている。県も支援しているが未来永劫はできない。物の値段も上がるが、給料も上がる正の循環をつくらないといけない。

【参加者】

・保育園児も小中学生もバスで通園・通学している。自然が近いのに遠いという印象。中山を整備して遊歩道を整えれば村民が入りやすくなり、民間で土日保育をやって、そこに補助などをすることはできないか。

【知事】

・長野県では信州やまほいくを進めている。いつも考えているのは長野県の強みは何か。東京でできないのは自然の中で子どもを育てられるということ。大桑村の保育園が認定を受けていないのであれば、ぜひ一緒に進めてもらいたい。
・バス通学・通園について、私もその状況は残念だが、私にどうこうできないので学校の皆さんと考えてもらいたい。

【参加者】

・自分は陶芸をやっている。村民にも特技を持った方がいる、その方々のワークショップなどを開ける仕組みができないか。

【知事】

・特技を持っている人が学校に入った方がいいというのはそのとおり。来年度、学びの円卓会議をつくらうと思っている。地域や保護者が課題を感じているのに学校が変わっていない。誰が決めているのかあまい。誰に言っても変わらなくて、結局動かなくて止まっているので掘り起こしをしたい。地域の皆さんと考えていきたいと思う。

【参加者】

・子どもの居場所づくりに取り組んでいる。県からは助成金をもらって研修会費用に充てている。木曾に定着できるように頑張るので継続してもらいたい。
・小さな団体が助成を受けようとする参加人数など様々な制約がある。市町村に言う話かもしれないが、小さく活動している団体の運営を補助してほしい。
・それぞれの制度の担当部署が分かっている。地域振興局とのやりとりの後で保健福祉事務所からいい制度を教えてもらったが、期限が過ぎていて使えなかったことがあった。連携して情報がほしい。

【知事】

・一所懸命取り組んでいただいて感謝。十分ではないが県としても支援を継続したい。
・小さな団体への支援は県でやるのは厳しいので村の方でお願いしたいと思う。
・情報の話について、縦割りになっていることは課題である。そこは気を付けたい。様々な支援制度を分かりやすく発信することが大事だと思う。工夫できるか考えたい。

【参加者】

・村の議会で山村留学を提案した。子どもたちの切磋琢磨が考えられ、親子留学であれば空き家解消などの効果がある。山村留学に対する県の考え方を教えてほしい。

【知事】

・長野県の保護者と話していると、子どもの数が減っていることに対する危機感、デメリットはかなり顕在化している。小さな小中学校で学んで高校にいくとギャップが出てしまう。小中学校時代にいろいろな体験ができることは重要。一つは、県として山村留学を広げたいと思い協議会を立ち上げた。地域で考えてもらい、一緒にやるという話になればぜひ協議会に加わってもらいたい。もう一つはサマースクール。夏休みにいつもと違う友人関係を築くことも重要。これらを広げていきたいと思っている。

【参加者】

- ・給付型奨学金を県でやってもらえるとのことであり感謝したい。
- ・韓国では給食費を無償化し、有機給食を進めている。県でも進めてもらいたい。
- ・子育てや教育も平和であってこそ自由に行うことができる。知事が先頭に立ってほしい。

【知事】

・給付型奨学金は来年度から取り組む。給付型奨学金のほかに、企業と連携して奨学金の返還支援をする制度をつくったので皆さんも一緒に普及させてほしい。

・有機給食をより広めていきたい。市町村では力を入れているところがあり、松川町では積極的にやっている。市町村が頑張ってもらいたい。

・給食費の話に関して、教育や子育てに関する経費がかかりすぎているのではと思っているので、どこをどのように軽減するかは全体として考えていきたい。

・平和の話について、先日沖縄に行って信濃の塔を慰霊してきた。沖縄県とは友好交流をしっかりとしようと思っている。韓国の総領事とも懇談したが、国レベルの関係は国同士のパワーバランスで課題が山積しているが、平和な社会を考える上では地方や民間レベルで交流を深めていくことが重要。

【参加者】

・村に素敵な図書館ができた。長野県はデジタルですべての図書館がつながっている。自由度を高めていただきたい。木の絵本や木のおもちゃを集めることなどをしてほしい。

・発達障がい関係では、木曽養護学校に知見のある先生が集まっている。その知見をどう使うか、いろいろと壁もあると思うが交流してもらえればと思う。

【知事】

・何でも自由にやってみるとか、壁を破るといことはこれからの日本社会として重要であると思う。